

新型コロナウイルス感染症対策（一日の流れ）

基本行動	○手洗い（こまめに石けんで手を洗う） ※水道付近が3密になる可能性があるため、会話はできるだけ控え、密集しないように気をつける（水道の使用が終わったら早めに離れる）。 ○咳エチケット ・マスクを着用する。 ※使用済みのマスクは学校では捨てない（各自、袋を用意し、入れて持ち帰る）。 ※マスクを外したときは、各自、袋を用意し、入れておく。 ※袋はジッパー付き、持ち手が縛れるもの等、密閉できるものが望ましい。 【マスクを着用していないときに咳やくしゃみをするときは】 ・ティッシュなどで鼻と口を覆う。 ・とっさのときは袖や上着の内側で鼻と口を覆う。 ・周囲の人からなるべく離れる。 ○「密閉空間」「密集場所」「密接場面」が重なる場면을避ける。
------	--

生徒（登校前から登校まで）

登校前 （自宅）	○検温、かぜ症状を確認し、各自、TMノート等に記録する。 →発熱、かぜ症状等があるときは、自宅で療養する。 （校長の判断により、出席停止とすることができる。）
登校後 （教室）	○教室等の活動場所を換気する。 ○天候、気温等に合わせて服装を調節し、健康管理に努める（下校するまで）。

生徒・職員（在校時）

SHR	○健康観察（在校時に体調が悪くなった場合は速やかに保健室に申し出るように伝える）
授業中	○教室は常時換気する（できるだけ窓、ドアを開けておく）。 悪天候により常時開けることが難しい場合は、廊下側の窓を2か所以上開ける。 可能であれば休み時間に外側（ベランダ側）の窓も開け、換気をする（10分間程度）。 ※エアコン使用時期も常時換気をする（できるだけ窓、ドアを1/3程度開ける）。 換気により室温が下がらず熱中症が心配な場合は、悪天候時の換気の仕方に準ずる。 ※清掃終了後に窓を閉め、施錠する。 ○近距離での会話や発声場面はできるだけ控える。飛沫を飛ばさないようにマスクを着用する（推奨）。 ○学習中にかぜ症状、強いだるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）等の症状があったら速やかに保健室へ連絡する。保護者に連絡し、早退する（出席停止）。 ○筆記用具、教科書、体育着等の共用はしない（貸し借りは控える）。 ※共用で使用する教材、道具等は使用（前）後に消毒する。
休み時間	窓を全て開け、換気をする（10分間）。悪天候の場合は、可能な範囲で換気をする。

昼食 昼休み	○食事前の石けんを使用しての手洗いを徹底する。清潔なハンカチ、タオル等で拭く。 ○手指をアルコール消毒する（消毒液の在庫がある限り）。 ○昼食は机を移動せず、自席でとり、会話は控える。中庭で昼食をとることも可能。 中庭で昼食をとる際も向かい合うことはせず、十分な間隔を開け、会話はできるだけ控える。 ○飲食物のシェアは控える（個別包装も含む）。 ○授業中の換気の仕方に準じ、換気をする。
清掃時 (消毒作業)	○清掃監督者は清掃監督場所の消毒作業を行う。 ※消毒する場所は、机、椅子（主に背もたれ）、ドア（ドアノブ）、スイッチ、鍵、蛇口、手すり、自動販売機等、多くの人が触れた可能性のある場所。 （自動販売機の消毒は保健室で行う。） ○マスクを着用する。 ○ごみ捨て作業やトイレ、水道周辺の清掃にあたる際は必ず手袋を着用する。 ○清掃終了後は必ず石けんを使用して手洗いする。 ○特別教室、準備室等の消毒は、管理責任者の責任において1日1回以上行う。 消毒作業は清掃時とは限らない。
放課後	○居残り学習、課外授業等で使用した場所の消毒は管理責任者または監督者が行う。
部活動	○活動時間：通常より時間を短縮して、効率的・効果的に活動する。 ○生徒同士の間隔を空ける（ミーティング・ジョギング等）。 ○部室の使用：短時間の使用とする。一斉に使用せず、会話はできるだけ控える。 ○ボール等の使用する器具は使用（前）後に消毒する。 ※消毒に必要な物品はできるだけ各部で準備する。 アルコール消毒液は保健室にあるものを使用可。 ○屋内での活動の際は、換気を徹底する。 ○発熱、かぜ症状等の症状があるときは活動に参加せず、自宅で療養する。

※「範囲」「間隔」のめやす→ソーシャルディスタンス(1~2m以上)

参考：「新型コロナウイルス感染症学校における対策マニュアル」栃木県教育委員会（R2,5,15）